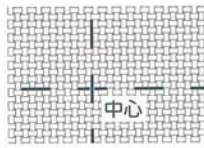


刺す前の準備

刺す前に布目を数えやすくし、間違いをなくするために、刺しゅう布に糸印を入れておくことをおすすめします。特に大きな作品ほど入れておくことと便利です。布の中心をとり、そこからしつけ糸で十字に布目に沿って糸印を付けます。糸印は4目抜く作品は4目おきに布目を拾っておくと、より目数が読み取りやすくなります。また、作品に応じて、所要所に同じように糸印を入れるとよいでしょう。

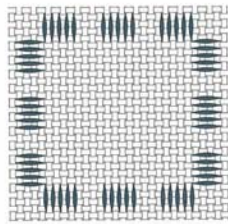


ハーダンガー刺繍の手順

ハーダンガー刺繍の作品を作る時は、基本的には次の手順で刺していきます。

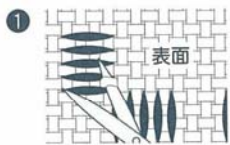
<1> ストレート・Sを刺して輪郭を作る。

織り糸を抜く部分の周囲にストレート・Sを刺します。ストレート・Sは後で織り糸を抜く方に針を入れるようにすると仕上がりがきれいです。この時、切る織り糸の本数は偶数にし、ストレート・Sの数は奇数にする。



<2> 織り糸を抜く(二通りの方法があります)。

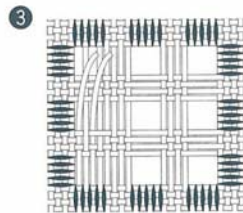
織り糸をストレート・Sのきわで切って始末する方法



① ストレート・Sのきわで上側になっている織り糸にはさみの先を入れ、表に浮いている織り糸を1本ずつすくって切る。織り糸をストレート・Sの中へ引き込むようにして切ると、糸端が見えずに美しく仕上がる。

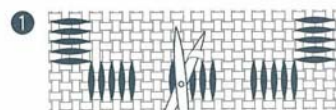


② ①で下側になっていた織り糸は、裏面に返して、同様に裏からストレート・Sの中に引き込むようにして切る。

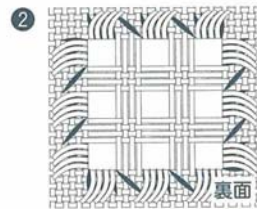


③ その後は同様に、指定通りの本数を抜いていく。一度に切らずに、少しずつ切って抜いていく方がよいでしょう。

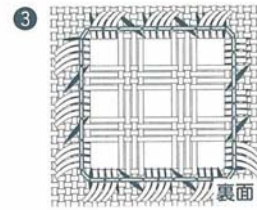
織り糸をきわで切らずに裏に折り返して始末する方法
(より丁寧な仕上げとなります)



① 織り糸を裏に折り返すことを考慮して、ストレート・Sから少し中程に入ったところの織り糸を1本すくう。



② 織り糸を切り、それぞれ両端まで抜く。その後は同様に指定通りの本数の織り糸を切って抜く。一度に切らずに少しずつ切って抜いていく。



③ 端に集めた織り糸を裏に折り返し、先に刺したストレート・Sの糸に、バック・Sで止め付ける。余分な織り糸はカットする。

<3> 残った織り糸を指定通りにかがる。

<4> 刺し終えたら、糸に傷をつけないように気をつけながら、余分な織り糸をカットする。

裏糸の始末

刺しはじめは長めに刺しゅう糸を裏に残し、輪郭のストレート・Sを刺す時に中に入れ込みます。刺し終わりは、刺し終わったステッチの裏に通して止めます。刺している途中も、ステッチの中に通して、刺しゅう糸が長く渡ったり、表から見えないようにします。

洗濯

刺しゅう後の作品は、コピーペーパーのあとや、手あかで汚れています。仕立てる前や加工に出す前に、洗濯をします。特にコピーペーパーは、熱を加えると落ちにくくなる場合がありますので、必ずアイロンをかける前に洗濯します。

ここでは一般的な洗濯方法を紹介します。まず、刺しゅう糸がほつれてこないよう裏側の糸の始末を確認しましょう。洗濯は一度水につけてから中性洗剤を入れ、やさしく押し洗いをし、その後、水で何度もすすぎます。この時、万一余分な染料が出て、あわてて水から出さずに、色が出るのが止まるまで充分すすいで洗い流します。脱水はたたんで軽く脱水機にかけるか、タオルで挟んで水分を取り、薄く糊付けします。乾燥は風通しの良い所で日陰干しをし、アイロンはステッチがつぶれないように毛布などの柔らかい物を台にして、裏から霧を吹きかけながら高温(摂氏180~210度)であてます。クリーニングに出す時はフッ素系のドライクリーニングが最も安全ですが、いずれにしても以上の注意点を話した上でお出し下さい。

美しく刺すためのアドバイス

- 糸の引き加減はきつすぎず、ゆるすぎず、均一の調子で刺し、ステッチの大きさを揃えましょう。
- 刺しているうちに、針に付けた糸がよじれてくるので、よりを戻しなら刺すとよいでしょう。
- 何度もほどこいた糸は、けば立って仕上がりが美しくありません。新しい糸に替えて刺すとよいでしょう。
- ボタンホール・Sは、ダーニングかがりよりも本数を1本すくなくすると、きれいに仕上がります。